

第11回鳥取市市政改革推進市民委員会・議事概要

日時：令和8年2月5日（木） 10時05分から11時25分

会場：鳥取市役所 本庁舎6階 第8会議室

出席者：《委員》8名出席

山下 博樹 委員長、谷口 明洋 副委員長、川口 有美子 委員、古賀 真美 委員、

大橋 良輔 委員、土橋 勉 委員、小柴 正子 委員、大久保 英美 委員

《鳥取市》

行財政改革課：宮崎課長、米田参事、若田主幹、山崎主任、

会議内容

1. 開会

2. あいさつ

委員長：

2年間の任期で本日が最後の委員会となる。みなさんにはお世話になり感謝する。

本日もいろいろな議事があるため、進行にご協力をお願いしたい。

3. 議事

(1) 市政改革プランの評価方法について

事務局：

(実施計画の各担当課が自己評価に用いるシートについて資料4、5頁に沿って説明。)

委員長：

ただいまの説明や資料について質問はあるか。

私としては、数値目標は必要で大切な部分だが、それでは評価しきれないところで成果が上がったときに、その成果を記入できるとよいと考える。

また、数値目標を設けるとそれを達成することが目的化するが、計画本来の目標と合致していればよいが、微妙にずれていたりすると違う方向に進みがちになる。それに対しても確認して当年度に是正できるようするべきと考える。

A委員：

これまでも担当課の自己評価の書きぶりが課で異なっているので、どれくらい具体的な事を書けばよいのかサンプルを示してもよいのでは。また、自己評価に記載する情報量も課で異なり、市民委員会が評価するのにすべての計画で十分な情報あったと言えない。それも検討事項と考える。

事務局：

評価シートはできるだけ統一的な記載ができるように行財政改革課が担当課に依頼するが、担当課も人事異動などで担当者が変わることもあるので、行財政改革課の方で

詳しい資料を作成して統一的な見解を示すとともに、全体をチェックしてできるだけわかりやすい詳しい内容の記載になるようにしたいと考える。

B委員：

評価シートに自己評価を記載するのはどのような立場の職員になるのか。

事務局：

基本的には詳細まで把握する担当者が評価シートを記載し、担当課全体がチェックして行財政改革課に提出する形である。

C委員：

数値目標について、当該年度の達成状況欄があるので、年度初めにその年の目標を記載する欄もあれば、当該年度にどれぐらいできたか一目でわかりやすいと考える。次年度の計画を立てる際に次年度の目標数値を設定するとよいと考える。

(2) 市民委員会活動報告書について

事務局：

(市民委員会の活動報告書の案とむすびの文章について資料6頁以降を以って説明。)

委員長：

現時点の報告書案には2年間の活動の取りまとめとなっている。気がついた事があれば事務局にお伝えいただきたい。

むすびの文章はみなさんのご意見や感想、今後に向けての要望でもよいので本日伺いまとめていきたい。

D委員：

初めて市民委員になって市政改革プランの実施計画を見たが、担当各課がよく練られているところは市民としても安心するところであった。一方、計画の立て方が抽象的であったり具体的であったりと差があると感じた。

中長期的な計画や過去からの流れを汲む計画は、普段見ることのない世界であったし、そのような計画に市民の意見を求めることに対しては、市民参画できたというか有意義であった。

E委員：

大きな時代の変化がある中で、市民のためにいろんな取組をされていることがよくわかった。これからも計画を進めていただくとともに、市民にとって良くなることを説明いただきたい。

F委員：一市民として鳥取市政の発展に少しでも協力できたのなら嬉しい。

市政のいろいろな課題を解決するにあたり、市民として意見して改善につなげていく委員会があることを委員になるまで知らなかったが、非常に勉強になった。

今後も1人でも多くの市民の意見をどのように吸い上げてこれからは繋げていくか考えていきたい。

G委員：鳥取市政が喫緊の課題がある中で一生懸命やっていることが分かってよかった。市民としては優先順位を上げてほしいと思う問題があっても市政は簡単にできないとこ

るもあるし、チャレンジをしていくから市民から反発も受けることもあるが、いろんな意見を聴きながら住みよい市にしていきたい。

C委員：

実施計画のヒアリングにおいて担当課の職員に自分自身の思った事、気が付いたこととお伝えした際、真剣に受け止められたことが印象に残った。そんな環境があることがありがたく、また市民の声が直接届く場はとても勉強になった。

H委員：

鳥取市に市政改革をしていく取組みがあることを知らなかったところから2年間参加し、私自身がどこまでこの取組を理解し役立てたか分からないが、各実施計画の担当課が一生懸命に取り組まれていることを実感した。

A委員：

実施計画の二次評価は難しく慣れなかったが、実施計画のヒアリングでは評価シートだけでは伝わらない、事業の必要性や取り組む側の想いを聞いたことが印象的であった。税金を使ってやっていることでもあるので、市民にも知ってもらう機会やチャンネルがあるとよいと思う。

活動報告書もどれだけ見てもらえるか分からないが、鳥取市の市政や市民委員会が二次評価してきたことを広く知ってもらえることを希望して感想とさせていただく。

委員長：

今の市政改革プランは市職員の働き方の改善や業務の効率化が中心であるが、かつては市民サービスに係る計画が前面に出ていた時期もあり、市民委員会の性格も変わってきたと感じる。その中で二次評価は委員の意見を活かしながらブラッシュアップしてきたし、市職員も評価シートの作り方に慣れ、繋がりができたと感じる。これが慣れてくると担当課の自己評価を二次評価するだけでは物足りなさを感じるが、先ほどみなさんが言われたような市民目線のアイデアなどをお伝えする機会としても二次評価を活用できるのでないかと考える。

そのほか、市民委員会の取組みなどへもご意見はないか。

F委員：

金利や物価が上がる中でいろんな計画を立てていっても計画通りにいかず、修正を加えながら改善しなければならないのがこれからの2年間だと思う。

進捗が芳しくないこともあると思うが、市民委員は親身になって市民としての意見も加えながら良い方向に向かえるよう活動していただきたい。

D委員：

先ほど委員長からこの委員会の変化も伺い、市政改革プランは鳥取市の内部改革が基盤であり、それは市民サービスにもつながるとは理解するが、市民サービスの向上につながる計画数が少ない。横道的にプロジェクトを提案するとか、そういった意見を市民から吸い上げるとか、市民にとってのメリットが大きくなることも次回以降は考えていきたい。

委員長：

以前は市民サービスの向上がメインであったが、他の委員会に同じようなことを検

討する委員会があるため、市民委員会の方の性格が変わっていったという経緯がある。鳥取市も二つの委員会が似たようなことをするのは避けなければならないが、調整はしていただけるかと思う。また、市民委員から計画を提案するのは斬新なご意見だと感じた。

多くのご意見をいただき感謝したい。

4. その他

(1) プラン実施計画「使用料・手数料の見直し」について

事務局：

市政改革プランの実施計画の1つである「使用料・手数料の見直しのルールづくり」について、現在「使用料・手数料の見直し基本方針」の改定に向けて庁内で調整を進めているが、第三者として市民委員のご意見を伺いたい。

(方針案について別添資料に沿って説明。)

委員長：

市民委員会の本来のミッションとは違うかもしれないが、実施計画にある内容でもあるので意見交換ができればと思う。何かご意見はあるか。

E委員：

使用料・手数料が上がることは仕方ないと思うが、例えばフレイル予防など鳥取市が取り組んでいることと連動させた減免を設定するなど、ただ上げるだけでなくそういった事も一緒に考えてもらえればと考える。

H委員：

証明発行など手数料について、例えば銀行では窓口で振り込むと高い手数料がかかるがATMで振り込めば安くなり、ネット申し込みでは無料というような料金設定をされているが、印鑑証明もマイナンバーカードを使ってコンビニでも取れるようになっているので窓口では激しく高くてもよいのかと思う。やはりそれだけの人件費がかかっていることであるし、窓口の負担を減らすことにもつながると考える。

F委員：

現時点では物価高で上げる方ばかりと思うが、状況が変われば下がることも当然あると思う。手数料は値上げしたら維持される事も多いが、どういう状況で下がるのか。

事務局：

見直し基本方針案では施設やサービスに係る原価を基に使用料・手数料を計算する考え方なので、原価が下がれば料金も下がる。例えば、オンラインで施設予約も使用料徴収もできるようになり、人の手を介さなくなれば人件費がかからない分原価が下がる。そういった状況になれば安くできると考えている。

各委員からのご意見に感謝する。

B委員：

窓口とオンラインで料金に差を設けるご意見も該当すると思うが、市民委員会が評価してきたDXなどと結びつくところがある。そういった技術を上手に使うと、負担軽減や

コスト削減にも積極的に取り組んでいただきたい。

委員長：

本日の議題は以上となり、2年間の委員会も終わりとなる。この2年間は委員全員が揃う会議が少なかったり、委員の交代もあったり、長年委員をされた方の遠方への異動もあったが、みなさんと一緒に鳥取市の役に立てたと思う。まだ、活動報告書の仕事が残るが、みなさんには委員会運営にご協力いただき感謝申し上げます。

それでは事務局にお返しする。

事務局：

市民委員が集まる今年度の会議はこれが最後となる。

市民委員会の活動報告書は総括の部分を委員長に作成していただき、完成後は市民委員会を代表して委員長と副委員長から市長或いは副市長への報告を対面で行う予定である。それによってご意見を市政に反映させていくこととなる。

市民委員会に2年間ご参加いただき感謝する。

これを以って第11回市民委員会は終了とする。